

才子
必續

好之尚經

坤

^ 13
2735
2



門 へ13
號 2735
卷 2

妙、奇談下

目錄

第五回

紫石紉寫三

第六回

現心地獄相

第七回

蛆蠅作奇詩

島田藏書

妙く奇談下

周滑平先生著 門人 晏無鏡 編集

け編第六回より。二番目の紙向へ入る。その
あつてまう別々下巻とまうとの唯頁数の
多寡を拘敵せんをのみ。看官疑ひと
くま置くるのまうんハ幸甚。

第五回



紫石紀馬三

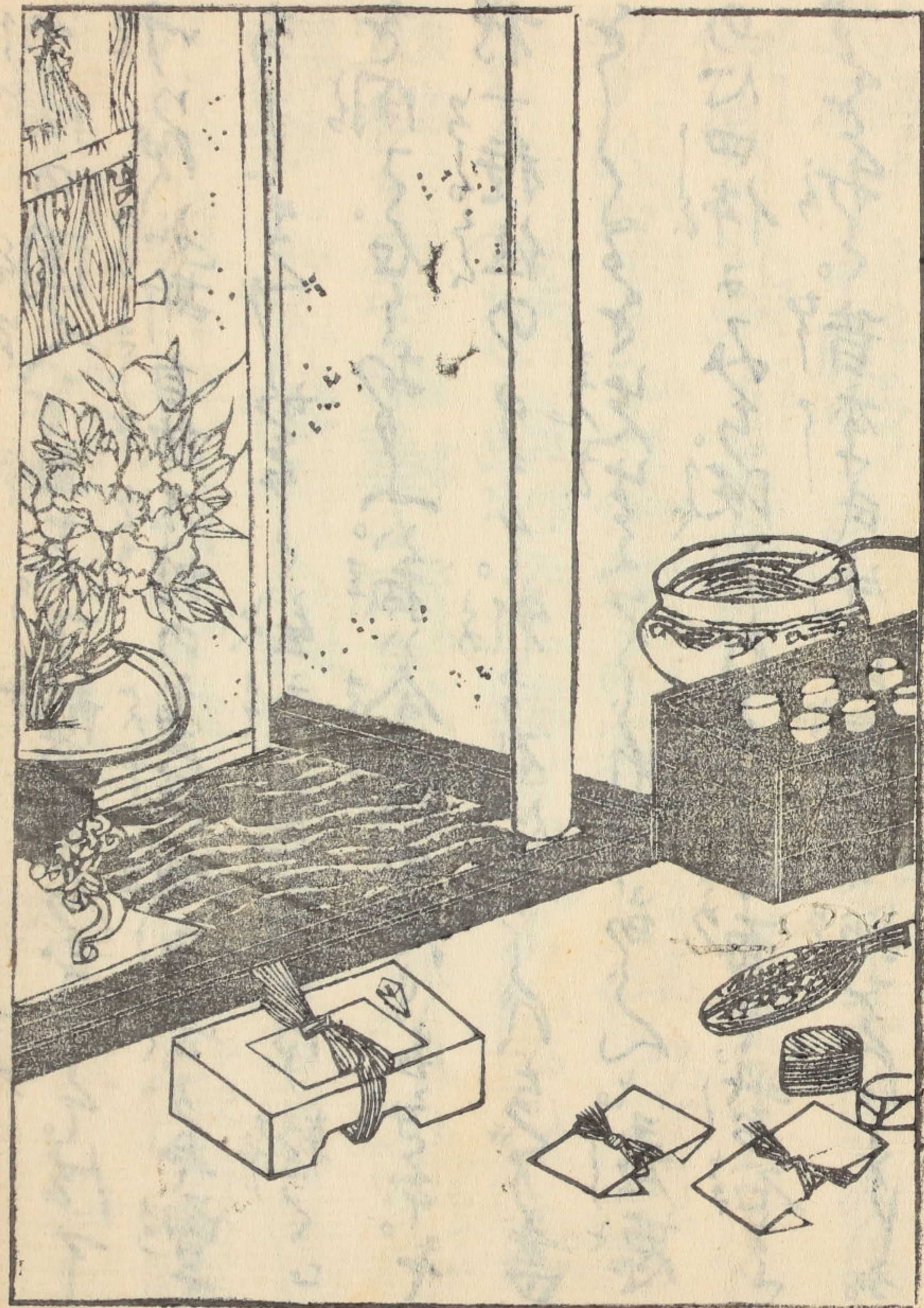
唐代の画士王維李思訓と始久宋明の画人の美
一堂及来會して遊。王維雪中向名も定
か今所存知らざりたるべし。近年日本より狩野氏
の風よりいふ異やある画を唐画と唱へて賞
玩せしむけ画法全く我亦付へしはあつて然るは
唐画の名甚不審ちうくいへば趙松雪曰我も怪
しく存せしむる頃その起る所と案ぶるに宋紫

石 沈南蘋 あしなひん ちんなんひん ちんなんひん ちんなんひん
あるものありん。答へらる。紫石南蘋 あしなひん ちんなんひん ちんなんひん
有く。此ハ不審 ふしん を業 わざ する。尤も校 ま ちまふあふべ
我 われ 亦 また あり。彼 かれ 地 ち 又 また あり。画譜 がふ をも も 殊 こと あり。事 こと あり
ハ左思 さし へ玉 たま あり。我 われ 亦 また あり。係 けい 我 われ 玉 たま の友人 ゆうじん 達 たち にも
多 おほ 画 が 風 ふう を唐 たう 画 が と名 な 付 つけ たり。我 われ 等 ら 亦 また あり。起 おこ たり
く。作 つく る義 ぎ ハ甚 おほ しく心 こころ 患 うれ へ存 ぞん たり。早 はや 速 すみ 日本 にっぽん
俊 とよ 了 りょう。彼 かれ 徒 た を紀 き たり。あ あ 一 いつ と換 か 換 か たり。此 こゝ 時 とき 南 なん 蘋 ひん

ハ病 びやう 氣 き ゆ。紫 むら 石 いし 一 いつ 人 ひと 遙 はるか の波 なみ 清 きよ を凌 あ ぎ。長 なが 崎 さき 又 また
惡 わる 船 ふね。此 こゝ 地 ち の画 が ハ捨 すて たり。大 おほ 都 と 會 かい の江 え 戸 と 下 した たり。
淺 あし 草 くさ 雷 らい 門 もん の辺 へ。世 よ をお お たり。古 ふる
人 ひと 涼 すず 休 やす たり。誅 せい 士 し の方 かた。暫 しば 留 とど たり。世 よ の取 と 沙 さ 法 ぽう をや や 合 あ 居 い
る。書 しよ 画 が お撲 むく 番 ばん 付 つけ たり。子 こ の成 なり 一 いつ 枚 まい たり。其 その
を身 み たる大 おほ 國 くに 画 が 三 さん 谷 や 間 ま 五 ご 郎 らう 字 あざな 文 ぶん 趙 てう 林 りん 兼 けん 穀 こく 間 ま
十 じゆ 郎 らう 子 こ 画 が 家 か 下 した 谷 や と記 き たり。あ あ 一 いつ とあ あ たり。さ さ 一 いつ 人 ひと

を乳一吟味せんと或曰下谷みりう写三樓を法
 多に聞五郎幸ひ左宿り。一間み通。何方より
 出と尋りききハ不佞ハくハ存及バき。宋
 紫石よりゆふをせり。聞五郎威儀を致めを
 せり。ちきりくはひもあらざる。此来修りての来
 事みり哉。紫石曰されバ別伎もあらざる。近來大
 雅堂諸葛の外異様の画とせり。唐画と名付
 一事唐宋の在く不審り。され我々南嶺二

人より。その凡起もその疑黙止。け比来
 了。唐画の名目或おれさんとも。折唐画と名
 付りき。いづれ来たりやと。言とて。聞五郎
 ことば。我必の画とハ。雪舟家。狩野家。土佐家。
 号と名画とヤ。又日本画と稱して。朝鮮へもきハ
 たり。この三家。似るが画さ。日本をみ
 たり。唐とヤ。と答ふ。紫石曰。左と。い。べ。し。
 然るに。唐宋の法と。似る。唐と。美。



第廿
高位の国人を画す。下骸もらむ。法不
けり。如斯自放不坊の畫法。我をばる。實
ち。と。ま。り。か。ま。く。と。ま。り。を。同。五。の。輪。く。口
を。開。く。心。を。お。り。い。ぬ。い。ぬ。今。後。の。世。も。ま。り。を。
持。一。種。位。の。の。り。を。新。ち。れ。心。を。い。へ。ち。ま。り。書
と。ま。り。を。と。ま。り。を。い。ぬ。い。ぬ。あ。ら。ん。と。羞。惡
の。心。四。体。を。み。ち。限。と。な。り。て。南。面。を。紫。石。を
ま。り。を。新。ち。昔。本。子。氏。牛。比。画。を。い。ぬ。い。ぬ。あ。ら。ん。と。羞。惡

武祿師牛腹中よけとぼんと示し。玉ひ。その後
佛像の。画。を。い。ぬ。い。ぬ。あ。ら。ん。と。羞。惡
お。り。い。ぬ。い。ぬ。伊。勢。の。寂。照。月。仙。三。子。世。界
を。ま。り。を。新。ち。今。後。の。世。も。ま。り。を。
眞。官。の。生。を。換。る。所。を。考。見。玉。ひ。い。ぬ。い。ぬ。大。千
世。界。も。ら。怪。し。さ。形。の。人。を。い。ぬ。い。ぬ。あ。ら。ん。と。羞。惡
ま。り。を。新。ち。今。後。の。世。も。ま。り。を。
の。揚。子。屋。を。入。屋。を。い。ぬ。い。ぬ。あ。ら。ん。と。羞。惡

てありきりて
手足榴木てありきりてに似る人物を画く。自ら得しうといひ人
ごとくをやらされく。この世に免とあき。死く後ハ生
海嵐うみかぜもやせぬ換入かへりこ。尤款まげをまきこる。こゝろと
の非ひを知く。謝礼しやうらいのま女まんなのむきこる。名な人ひと凡ふん止と
みし。五ご体たい具ぐ足そくの人物にんぶつと畫えまき生なく人ひと才さいと
矢やのぬねぬね心こころもあられよ。唐宗たうそうのころ我われぞう
あたしよりけふあち。古ふる人ひと達たちよ云いふもあせん
と云いかすややババヒヤヒヤドロドロくも。安やすハハススギギ。文ぶん趙てう

獨言ひとりごと曰い免角めんかく浮世うきよなら今いまの華はな阿あ陀だ院いんささ光ひかりの遠とほ
かとの世よ。ヨヨハハ生なま海うみ嵐かぜの生なま成なりて付つのるも。
手てを組くく默もく然ぜんたる顔かほをみ。此この舞まひ臺たい仕しりり
白しろく。

評ひやう曰い或ある人ひと寫か三さんの富士ふじに画えくハ南なん嶺りやうも
譽うたやるよ。さざく。富士ふじの画えを數かず度たび寫か
三さんの心こころをいふ。三さんのあみく。敢あく画え
ぐ。繪え事こと後のち素すよのみきふ。いいく人ひと解と

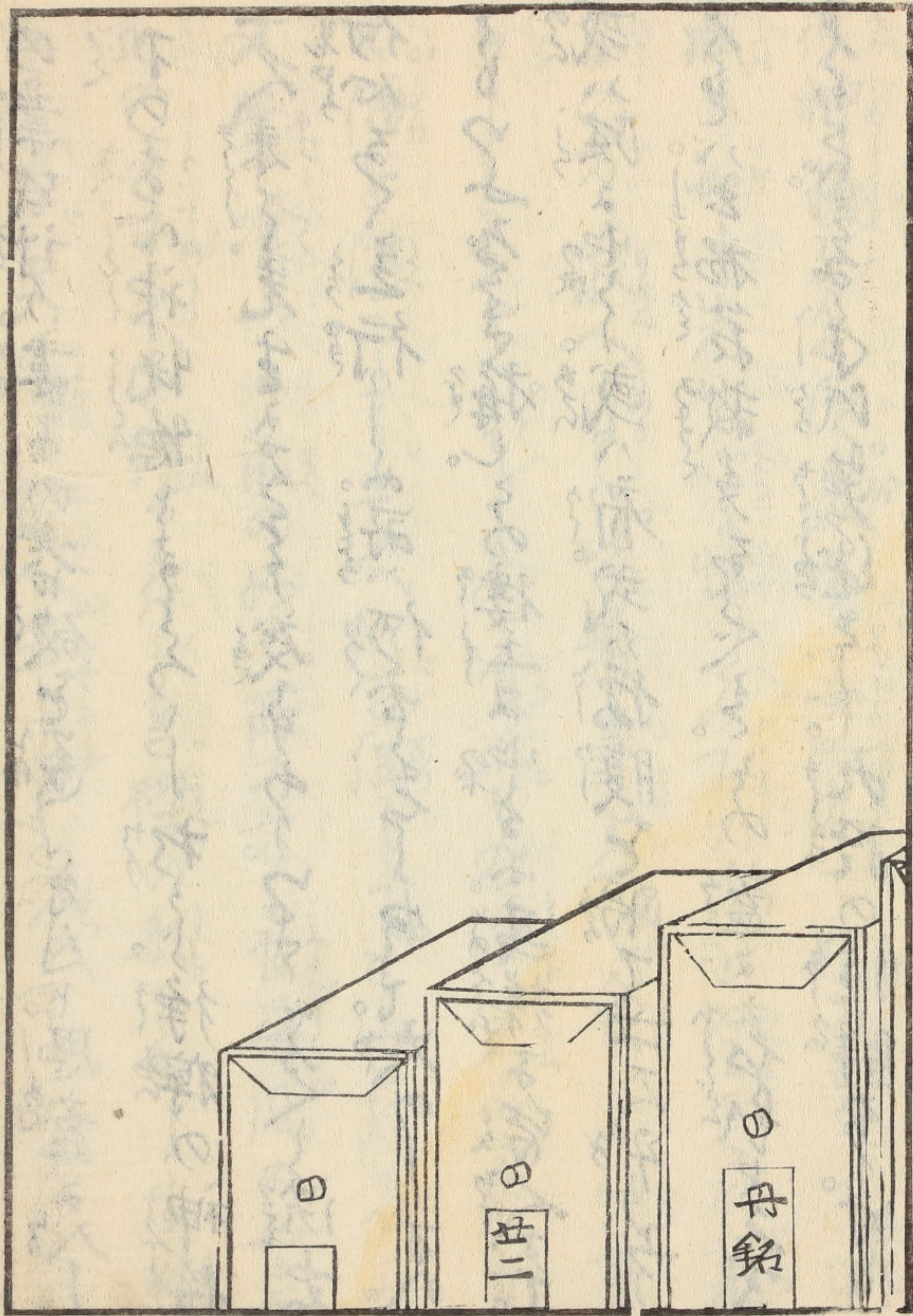
せんしん。その由と識者より伺ひを白紙
と後と云謎語あるなり。

第六回

現心地獄相

太田錦成先生の学古今を窮め一世を睥睨し
人を蛆蠅の如くおとし。當代獨歩の英才あり。

風と権門の小祿みばされ天竺の才と上達するを
あも倍よつとゆる。あもあも果ては儒考とて宜るべ。
妻子創よ呼びきこみ痴ひ。笑ふは羨迷らへとも刻
まへき餘財ある百律九經談。刻成るといふ。身は
潤まの富よりくはく。又三まの清集を梓行し
りきと。あも六村商人頼氏五三三。同し重んずる。
肯にぬ人多わく。さき門人きこむ。想その方へ。い
ち元のみみ。別し市めるる人もく。いふありく。女



の業^{わざ}は計^{はかり}り。妻子^{しよし}の嗜^{しよ}欲^{よく}を遂^{とほ}げんと思^{おも}ふ。入^いり
机^{つくえ}のあし^{あし}に^に神^{かみ}悦^{えき}物^{ぶつ}と^とま^まら^らし^し。打^{うち}ら^らし^し。神^{かみ}將^{しょう}
一人^{ひとり}来^きり。先^ま生^{せい}と^とま^まら^らし^し。交^{まじ}り^あり。つ^つま^まら^らし^し。洗^{せん}ふ。
何^{なに}心^{こころ}も^もく^く。立^た行^{ぎやう}し^し。ぬ^ぬ好^{こう}い^い。何^{なに}も^もと^とら^らし^し。何^{なに}も^もと^とら^らし^し。大^{だい}の^の一^{いつ}百^{ひゃく}八^{はち}
も^も子^こを^をま^まに^に持^{もち}し^し。よ^よの^の樓^{ろう}上^{じやう}に^によ^よる^るふ^ふ。其^{その}梯^{はし}子^こ皆^{みな}人^{ひと}と^と。
或^{ある}ハ^ハ既^いに^にや^やし^し。或^{ある}ハ^ハ肩^{かた}式^{しき}の^の腹^{はら}と^と踏^{ふみ}て^て。六^む八^{はち}斗^とり^りと^と
ん^んき^きバ^バと^と物^{もの}を^を救^{きう}ふ^ふと^とぐ^ぐも^も。其^{その}蓋^{かき}又^{また}表^{あは}敷^{しき}と^と成^なり^り
え^えも^もふ^ふ。こ^こも^もに^に幸^{さい}ひ^ひに^に逢^あは^あし^し。九^く段^{だん}の^の巨^こ解^{かい}と^と付^つく^く

彼^か神^{かみ}將^{しょう}ハ^ハス^スく^く。羨^{あや}む^む。一^{ひと}女^{によ}也^や。集^{あつ}て^て。媚^{めい}と^と言^いて^て。旧^{きう}
識^{しき}の^の如^{ごと}く^く。先^ま生^{せい}心^{こころ}に^に怪^{あや}し^し。み^み下^{した}の^の方^{かた}と^と言^いえ^えれ^れ。先^ま
新^{しん}の^の方^{かた}に^に救^{きう}ふ^ふ。皆^{みな}筆^{ふで}墨^{すみ}と^とい^いく^く。食^くし^し。絶^あ事^じ
あ^あし^し。と^とい^いく^く。こ^こも^もの^の食^くふ^ふ。其^{その}傍^{たがひ}に^に大^{だい}き^きの^の籠^{かご}者^{もの}
て^て。酒^{さけ}を^を湛^{たん}じ^じと^とす^す。そ^その^の人^{ひと}形^{かたち}を^を復^{たがひ}し^し。こ^こも^もの^の代^{しろ}香^かみ^み。
又^{また}筆^{ふで}喰^くふ^ふ。前^{まへ}の^の如^{ごと}く^く。西^{にし}の^の方^{かた}に^に古^こ屏^{びん}風^{ふう}の^の如^{ごと}く^く。
そ^その^の手^てを^を足^{あし}と^と縛^{むす}り^り。た^たの^の碓^{うし}の^の形^{かたち}を^をあ^あし^し。こ^こも^も
ま^まの^の人^{ひと}也^や。其^{その}傍^{たがひ}に^に救^{きう}ふ^ふ。筆^{ふで}由^{よし}堂^{だう}と^とい^いふ^ふ。た^たの^の碓^{うし}の^の

如し。又或ふ四人衣帯とききりむやう又出立る並
 居しが中より一人の隙を垂きく伏しうると白衣
 の老翁板の割たるを拵めて彼即くの喉をさすま
 りてふ。阿つりてきくもあきるむの汗と流して
 苦しむ。符の即人のききと又そ魂天外に飛ぶ畏
 るりてあきし。その後馬の皮を上り麻の皮と
 下より二枚お全彼二人はあききしてけり。又き人
 大なる銃の魁をひく隙を押し居るのききる堪へ

む。身をあききりてけり。肛門、銃棒を捻ひそ
 りて。又傍に洞山あり所は流石蒲萄石の晶杯
 まりてそくそく二人はそそ刻む或はそそ
 或は方圓よりそそそを刻む。或はその後より酒食
 出るる多きやうに物々その暇あれば皆健やか
 て放し。壺の如く南系操の如く遙く南の方で見
 き。道服の老翁二人きくの俗士とせしめて曰。汝
 賣名射利の心は薄しとくども我ホグ出似て。



道人めくろく心得也。五千言十萬言よく會
 るやくと。考る者あり。同才又老人と在る
 お對て。壯士老人と移し。白。古。付。傳。と。多。宗
 之の傳るあり。或ハ詩文といふ。多。其。帝。あり
 或ハ多用の書と老述して。利をばんるや。又
 ひれ門の學と傳し。之と與し。むよあり。且
 老人と我と古今一轍同達と承り。又。鳴。字。樂
 し。む。南。と。名。と。取。く。お。飲。ぶ。あり。か。の。刀。と。見

や。む。ん。ち。る。異。人。ま。く。の。老。翁。と。傳。と。取。く。た
 の。し。む。異。人。老。翁。と。並。び。中。あり。曰。世。と。改。く。世
 と。離。き。又。老。翁。と。我。と。有。君。か。為。る。壽。と。あ。え。と。面
 おく。汎。々。の。河。ス

お。め。く。び。り。し。の。む。君。が。寐。が。も。寐。云。大
 浮。世。の。穴。成。ら。ち。る。令。魚。つ。る。海。の。堅。學。考
 唐。人。め。く。享。保。學。子。團。子。の。如。き。肝。と。や
 之。人。每。一。と。を。命。負。柳。凡。成。又。研。く



天民

江戸紫のたふれ哥。ストめや歌。その中も
 今やうの。か限。く。舌顔を人や連中。
 ちき皆君が。ちる。と。様。石部。を。様。か。く。多
 め。く。まの。様。を。堅。め。る。放。屁。傳。ち。が。好。し。
 も。不。い。も。あ。り。ぬ。君。を。持。も。我。と。く。ま。の
 中。あ。り。六。鼻。は。は。は。ん。く。ち。う。つ。ま。う。と。吉。切
 雀。ま。い。ぬ。吉。く。喜。し。も。ふ。松。の。位。り。に。於
 か。と。あ。げ。く。ま。ん。白。玉。穿。野。ス。あ。る。思。進

山中めもさきお蜀山人

とま。法。よ。舞。紙。の。後。成。先。生。の。ろ。松。と。見
 く。お。ろ。も。向。あ。る。と。ぞ。ひ。の。ま。の。ま。人。如。懐。中。う。
 男女四五人と。あ。り。ぬ。その。ま。多。瘦。良。く。先。生。の
 臍。の。ま。ひ。け。く。その。痛。心。は。遠。く。と。堪。え。ま。ふ。
 自。分。と。空。腹。う。あ。ま。う。の。ま。ん。と。作。る。ま。は。あ。わ。わ
 袋。ら。う。あ。り。ぬ。れ。ぬ。取。付。く。川。あ。ら。ま。ん。その。袋。ま。り
 米。粒。中。く。か。く。腹。中。と。ま。ん。し。ま。あ。ら。ま。ん。事。を



八段より人拾取（拾取）とこれと等（等）なる者（者）又
 ありぬ取付（取付）勝（勝）をもちふ又付（付）母のまき紙
 四母の毒表紙（毒表紙）や一かたに拂（拂）く昔痛除（昔痛除）
 る所（所）にま同（同）ふく又昔（昔）にみ堪（堪）難（難）きをバの
 夜ハ四母の本をのむ（夜ハ四母の本をのむ）彼老（彼老）をき挿（挿）つとま
 名（名）をさる考（考）も放（放）ま（ま）改（改）し様（様）より先（先）に尺
 土勢（土勢）の甲（甲）も入（入）ら（ら）し（し）も付（付）後（後）来（来）引（引）成（成）
 形勢（形勢）のぬきと切（切）めま

何周（何周）ともなく危（危）し（し）く（く）難（難）し（し）く（く）あ（あ）ら（ら）は（は）幕（幕）

第七回

蛆蠅作奇詩

錦成先生（錦成先生）と友（友）のま（ま）に（に）ま（ま）か（か）も（も）身（身）を（を）必（必）と（と）あ（あ）ら（ら）ふ
 霧（霧）の中（の中）と切（切）ま（ま）か（か）し（し）り（り）心（心）を（を）必（必）と（と）あ（あ）ら（ら）ふ
 神（神）將（將）忽（忽）然（然）と躰（躰）を（を）先（先）生（生）我（我）を（を）ら（ら）い（い）ふ（ふ）
 そのとあ（あ）ら（ら）ひ（ひ）ま（ま）ら（ら）ぬ（ぬ）来（来）先（先）生（生）白（白）く（く）





りふふ屋のまゝのりふふ屋をまゝに
 と。さきさきいへ醜いあねはるふれく舎
 叔父の守り鍵あり。まゝのまゝに
 いまの様にあり。先生の著述あり又
 在方人等とてつらそ居り。ハミ画
 詞と賣物とありて。只以柳多宝言。夜高
 珂庵。南畑。膳庵。赤翠。竹。外。穀。春。年
 比。法。多。雁。中。五。院。と。ほ。一。を。ら。ら。海。顛。の
 下大

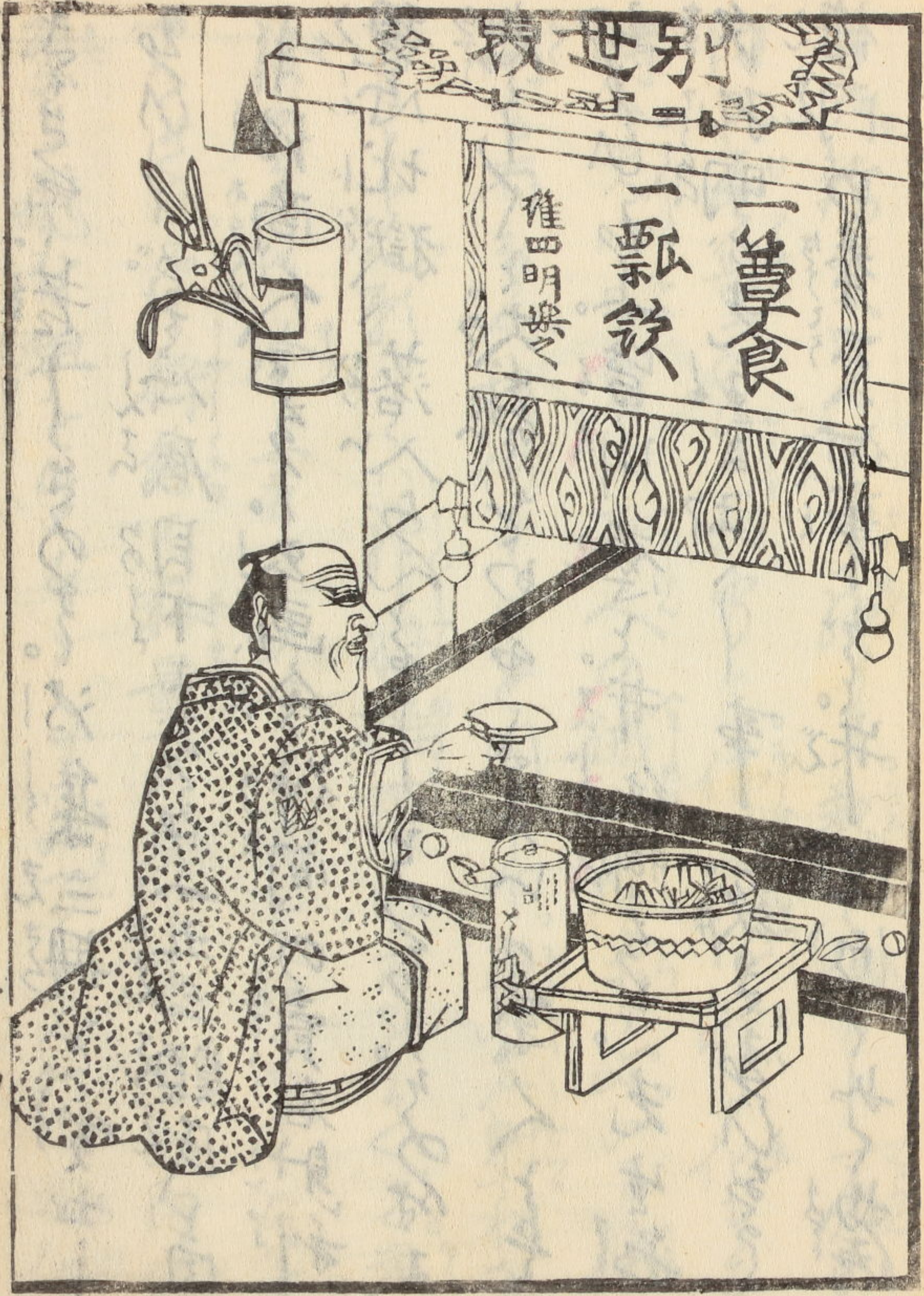
世にその悪報と頭くく。徳と捧ぐ。貴くく
 世よりゆる徳捧ぐ。洞山石に刻ぐ
 唐の今も屋三つあり。推さす。この
 二の意。一は食物を。命と撃ぶ。榮耀を
 得。風雅の心。石工と同く。徳
 け。皆建み。欲の約針。老
 なる。南の方。道服の二人。老
 莊子。葛才。縁是。





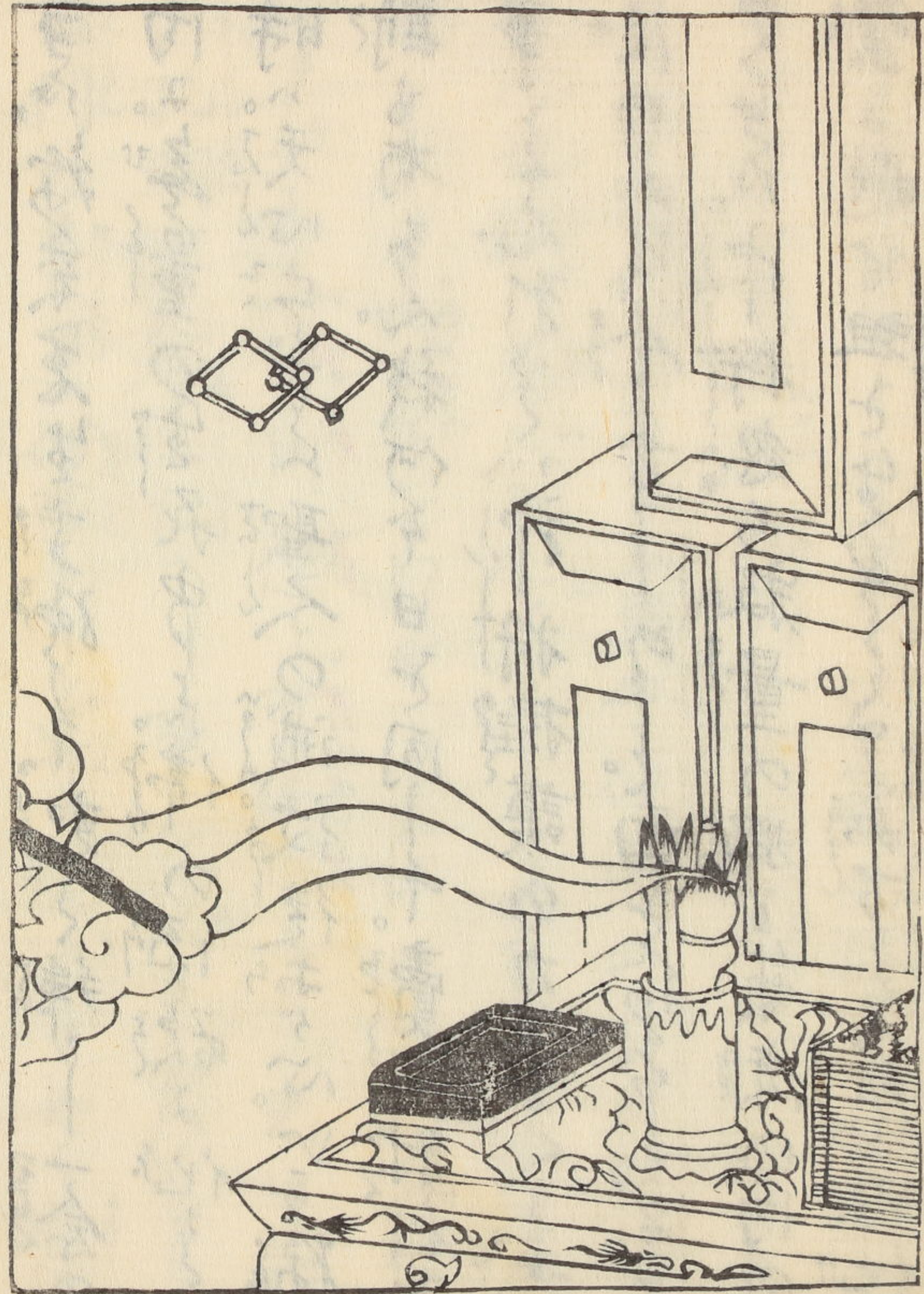
此二字ハ南華の白鰲。押付は身づくす由を
 示す。あはれは賢蔵をみよの丸吞やら
 加。道人めける成る。あふ。同トも本坊所
 也。老人と壯士と。お好きハ顔面と四明を
 こころの通をさハ。さす及ぶ。かの方
 仙人と對せん。南畝を利。仙人の奇み
 事さくみる。いさ及ぶ。お先生とのま
 と同下よ。あせ獨歩の勢。いさ及ぶ。

いふみせん内室五人の男女を産く。飢寒
 せほるとりまもいへし。皆先生の腰をかき。
 その心痛あしひ知りあふなり。依ては苦に堪
 つぶ。家貧しき妻子の愛なきに依りて古
 語に依りて小禄を。官仕せしむるれは片切
 玉の袋のぬきとりのりく。暫く苦痛と休免
 る。二度拂ひし。本八百律九段。淡し。
 ちの賣せしむ。志づくとく。又錢



きさきさ。若しよのき。活集三冊と。賣出
玉ひー。ごも心底目下よるごよ五三顛氏と尚
ト活商人ごま。虫画令仲間。の賣名射利。
現心比獄。落入らんごも。ごの多し。ごの付よ
危しくと。大おごとの布ごるへ。の衆人とを
おのひごよ。皆川。厚と。井純。御ご。先生お
夕孔明が先まよ仕へ。一。事と。款まごひを
権門の奉ふ。何事ごも。并説。何ごかく物
一。念の

身。給衆先生す。起く。一。念の
内よ。多量の生死中。佛の。説。欲。化。も
時ハ。天心。ふと。聖人の。戒。彼。徒。お。心。の。操
斯も有るん。我何。日。と。同。一。賣。名。射。利。を
事と。や。ん。所。ご。ハ。神。將。擁。護。の。力。を。ご。く。と。老
後の。ま。ひ。今。ま。ご。一。め。し。と。面。を。ご。の。も。ご。ご。を
ア。ご。ご。ハ。神。將。忽。ち。殺。量。の。耀。と。衆。底。の。内。の
壁。子。飛。付。租。と。生。ご。ご。ご。み。万。と。ご。ご。内。化



一々。數十卷の蠅と来り。车行西行上下
して文字とるやう。先生きみとあるはくさ
七言三十六句の詩多祭。

學士後未由徒尊
又書畫專門筆
寫三峯夷今無景
顛氏待田北三下
像曼却非老子注

即今儒流書畫同
的估射利筆為寫
寶齊羽衣難凌空
錦來古戰奕飛功
敬儀還害世昌凡

早地星影所掣車
汝亭貨沽亦行高
山突學子之誤三豕
洞孫村小無風玉
凌陳不調五目食
群風和俗果凡夕
西崖舟橫人無復
此餘文士多庶散

市川市間安船窮
金高執刀勤石工
四明眼裏不通
斗赤幹弱非鶴龜
強薦王侯一文中
春禽翻下尤小蟲
南湖岸遠水不洪
何以不似古名公

下七
錦糸先生はくぐと。うき成る。夫蛆蠅ハ
私ハ。無能なるもの。然るに。其め好
工なる。成業も。当世の文人。其ま
ま。蛆蠅の如く。おし。誤る。匹夫も。予
や。古人の。情。は。畏る。聖人
は。嗚呼。慎。ま。ざる。辱。も。や。私
ハ。両手と。組み。眼を。閉。感。心。の。心。持。り。
奥。の。方。先。今日。号。限。幕

是時左右の二指下ニ付あり成るを

大入。自。込。合。る。也。老人。様。は。神。學。の。形。ハ
静。は。讀。み。不。成。也。 彦元

評曰。儒者の巨擘。錦成先生の評。ま。ち。も。く。名
士。品。題。の。時。星。地。五。三。天。抵。の。姦。計。を。見。顯。し。
天。抵。は。與。へ。書。中。は。品。題。は。甲。乙。を。辨。し。至
公。の。さ。さ。さ。之。出。来。く。よ。つ。此。篇。の。作。也。その。小
説。を。二。番。目。に。延。錦。糸。を。状。元。居。り。が。

中分ハハるるま。ヒイキ
 多やもく。矢硯ヤヅリ垢カの学
 者ハ三ヶノ津ハ及ぶ。齋シヤウ又ハ
 惜シヤクるに。嘉志カシ近チカの裨ヒ糞ヘンガ
 ひろぬそぢ。此度ココロの穢シヤク
 判ハ多タ。既イニ地獄ジゴクハ落オト
 内室ナイシツガト云イんそ
 ヒイキ 何をぬそぢ。負ウニ安ヤスぢ
 ハ學ガク者シヤの常トコト云イ。
 乙子の争アキマの昆クニ中チウ。經キヤウ史シ
 百家ヒヤクカの卒ソツ年ネン甚シ多タ。
 文昌ヂヤウシヤウ星シヤウ躔チンハ
 終シユウ末マツの手テと携カキひ
 以モつて
 多タく立タ去サるぬ。その迹アトハ
 一イツ首シユの河カ原ハラ。その河カ
 曰イハく

何物ナニモノ關東クワントウ第一ダイイチ尤トウ。
 西山シヤンシヤン積雪シヤクセツ出雲イツツノ陟シツ。
 世間セケン多タ少シヤウ厭イツ蟲チュウ筆ヘツ。
 萬マン仞トシ芙蓉フヨウ不入フク眸メウ。

附評 水鏡山人撰



下ナハ冬

5

妙之奇談卷下終

漢書卷之八
卷之八
卷之八
卷之八
卷之八
卷之八
卷之八
卷之八
卷之八
卷之八

卷之八
卷之八
卷之八

下廿八
下廿九

下廿八
下廿九

